

令和6年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

3 あきる野市役所本庁舎5階 503～504会議室 <令和6年10月10日(木)開催>
① 横田基地所属の米軍機について
Q 横田基地から飛び立つ飛行機について、パイロットの顔が見えるくらい低空で飛行し、4機が重なって飛んでくることがあり、恐怖を感じている。1日30回以上来るときもあり、困っている。家で仕事をする時もあるが、集中できない。日米地位協定のこともあると思うが、せめて分散してもらおうとか、低空飛行をやめてもらおうとかしてもらいたい。
A 飛行機に対する市民の声は、他にも多く寄せられており、国に対して要請を行っている。市としても、市民の切実な声として、改めて受け止め、引き続き努力していきたい。
Q 横田基地の飛行機については、音が大きい、低空飛行だと恐怖を感じることもあるが、私個人としては、そこまで気にはならない。しかし、市の発展を考えると、マイナスであると思う。市が解決に向けて動く姿勢を感じられたならば心強いと思う。
A 今後も国を通じて要請を行っていくので、市に声を寄せていただきたい。
② 教育について
Q あきる野で育った子どもは素晴らしいと思ってもらえる教育をしなければならないと思う。
A ご指摘のとおりである。生き方が多様化している中で、学校としてできることのひとつに、道徳教育の充実が挙げられる。あきる野っ子の養成、文化の継承については、地域の方にも助けをいただき、家庭でも子どもに何が必要か考えてもらい、学校、地域、家庭それぞれで教育を行っていく必要があると考えている。
③ 給食費の無償化について
Q 給食費無償化について、第一子から対象となるのか。
A すべての子どもが対象となる。
④ 公共交通について
Q チョイソコについて、運行範囲は広がったが、行きたいところまで行くことができない。
A チョイソコは、駅やバス停から一定の距離がある公共交通空白地域を対象としており、既存の公共交通を補うためのサービスである。そのため、決められた停留所より先は、公共交通を使っていたらいいという考えである。 また、公共が交通サービスを提供するときは、既存の民間事業者の営業を妨げないようにする必要がある。チョイソコについては、現在、本格導入に向けて実証実験中であるため、データを集めながら、状況を見て進めていきたい。
Q タクシーをお願いした際、人手不足で行けないと言われたことが多々あるので、事業者の妨げにはなるということはないのではないか。
A 全面的に市がやってしまうと事業者の撤退に繋がってしまう。人手が足りないということであれば、事業者を増やしてもらおう努力をしても必要があり、タクシー事業者も従業員の採用を努力しているとのことであるが、厳しい状況のようである。公の交通対策は、事業者とのバランスを見ながら進めていきたい。
⑤ ヘルパーについて
Q 子どもに持病があるが、子どもを見ることができるヘルパーが少ない。
A 子ども向けヘルパーの人材の充実に向け、市としても力を入れていきたい。

令和6年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

⑥ 市役所本庁舎の屋上について	
Q	市役所の屋上を以前は見学することができた。展望室もあると聞いている。何かイベントを企画してほしい。 以前、市に確認した際、屋上に入ることはできなかった。開放できない事情は理解できるが、相手が大人で、写真を撮りたい等の理由があれば、開放しても大丈夫だと思う。大丈夫かどうかを見極めることができる人材が必要だと思う。
A	事故等の可能性を考えると、自由に開放することは難しいと思うが、どのような対応が可能かを検討していきたい。なお、学校等から、見学したいとの話があれば対応できる。
⑦ タウンミーティングの開催について	
Q	もっと良いPR方法があるのではないかと思う。
A	ご指摘のとおり、広く情報発信できるように考えていく必要がある。一方で、30人以上集まる回もあったが、今回のように参加者が少ない方が一人一人の意見をしっかり聞ける良さもあると実感している。より良い開催となるよう工夫していきたい。